



『もったいないばあさん』
真珠まりこ作・絵 講談社 2004

世の中の沢山の「もったいない」を「もったいないばあさん」が色々な方法で少なくしてくれる物語。これからも大事にしなくちゃいけない「もったいない精神」を「もったいないばあさん」とともに思い出そう！可愛い絵で何年経っても読み返したくなる絵本です。

D.H

『線は、僕を描く』

砥上裕將著 講談社 2019



両親を失い、そこから生じた喪失感から日々をただ無気力に淡々と過ごす大学生・青山霜介。水墨画の展示のアルバイトをした時に会った水墨画の巨匠・篠田湖山に弟子にならないかと言われ、そこから霜介は水墨画の道へと進み始めます。誰だって自分の事が分からなくなることはあると思います。この作品は、そんな人に一緒に寄り添ってくれます。ぜひ気が向いたら読んでみたら如何でしょうか。

N.A

『ぼちぼちいこか』

マイク＝セイラー作 ロバート＝グロスマン絵
いまえよしも訳 偕成社 1980

たくさんの夢を持ち、挑戦し続けるカバの姿をみて皆さんも様々なことに挑戦してほしいです。ときにはこの本を読みながら休んだり考えたりする時間も作って、ぼちぼちがんばってください。

M



『君のいる場所』

ジミー作・絵 宝迫典子訳 小学館 2001



どこか似た雰囲気のある男女。右に行く癖がある彼と、左に行く癖がある彼女は巡りあはずはなかったが、運命的に出会い、二人のドラマは突然始まった。誰もが一度は見たことがある景色に、感じたことのある感情がリンクしているため、いつかの自分を思い浮かべながら読んでみてください。

R.M

はと時計2・3月合併号

高3司書体験特集 2023年2月15日発行 第250号

後輩におすすめしたい本

チャレンジプログラムで司書体験に参加した高校3年生の皆さんが、後輩にお勧めの本をそれぞれ紹介してくれました。

松蔭中高図書館 library@shoin-jhs.ac.jp



『銀河鉄道の父』

門井慶喜著 講談社 2017

国民作家宮沢賢治の父の物語。今まで謎だらけだった物語が今始まる。直木賞受賞作！ぜひ、読んでみてください！

S.N



『話し方ひとつでキミは変わる』
福田健著 PHP研究所 2017

これから先、長い人生に欠かせない「会話」。あなたは、会話で大切なひとを傷つけていませんか？友達、家族、先輩たちなど、会話をする場面はさまざま。どんな相手にも気持ちが伝わる！？話し方のポイントが学べる一冊です。

T.H

図書館戦争シリーズ2『図書館内乱』

有川浩著 角川文庫 2011



この本の日本は、検閲によって自由な表現、報道が規制されています。それに立ち向かえる唯一の組織・図書隊と、良化機関との武装衝突が描かれており、戦争に目を向けるきっかけにもなります。シリーズの中で今回は何が差別なのか、障害とは？ということを考えさせられます。考えるだけでなく、くすっと笑える場面もあるので是非読んでみてください。

K.S

『Nのために』

湊かなえ著 双葉文庫 2014

女性作家、湊かなえさんの長編小説。ドラマ化もされ、話題になりました。登場人物全員”N”。登場人物全員の視点から描かれる、事件の真実に驚愕すること間違いなしの、純愛ミステリーです。

N.N

『妖怪アパートの幽雅な日常』
香月日輪作
講談社青い鳥文庫 2017

災難ばかりの主人公、タ士。新しく住み始めたアパートは、沢山の妖怪のいるアパートだった。人間と妖怪が共生する奇妙なアパート。

非日常の世界が楽しめる読むだけでわくわくする一冊です。 D.H



『ナルニア国物語 1
ライオンと魔女と洋服だんす』

C・S・ルイス著 角川文庫 2020

ピーターとスーザン、エドモンド、ルーシー、という四人のきょうだいがいました。ひよんなことから疎開先でルーシーはある洋服ダンスの中を通ると、残酷な魔女が支配する国ナルニアにたどりつくことを知ってしまいます。洋服ダンスを歩き来するうちに四人はナルニアの国の問題に巻き込まれていきます。日常を過ごす中で、退屈だなあと思った時にこの本を読むと、わくわくと冒険した気分になれます。皆さんもぜひナルニアという不思議な地へ冒険に出かけてみてはいかがでしょうか。 N.A



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
ブレイディみかこ著 新潮文庫 2021

人種差別、ジェンダー、貧富の差、アイデンティティなど、世界には数えきれない問題があります。自分とは関係ないからといってそれらの問題に向き合わないことは、ただの無知につながるのかもしれませんが。多様性に向きあわなければならない現代を生きる皆さんに読んでほしい一冊です。 M

『ただのおじさん2』

ふくだすぐるさく・え 岩崎書店 1996

おじさんの家に遊びに来るいろいろな動物たち。彼らの会話はシンプルではあるものの、どこか私たちの友達とのおしゃべりによく似ているように感じます。自分のことをよく知っている人が話を聞いてくれることの温かさを感じることができるのでぜひ読んでみてください。 R.M

『本を守ろうとする猫の話』

夏川草介著 小学館文庫 2022

夏木林太郎は、幼い頃から祖父と二人暮らしで、祖父は町で「夏木書店」を営んでいた。祖父が亡くなり、本を整理しに来っていた林太郎は、突然人間の言葉を話す猫に出会う。この続きはぜひ、本を読んで楽しんで下さい！



S.N

『ラベンダーとソプラノ』

額賀 澤作

岩崎書店 2022



金賞のために、「みんな」で頑張ろう！でもその「みんな」の頑張り方は、一人ひとり違うのかもしれませんが。おとなだからこそ気づけない、こどもだからこそ実感できる、心に響く物語です。 T.H

『ミステリアス・クリスマス』

ロバート・スウィンデルズ、スーザン・プライス ほか著
安藤紀子 ほか訳 パロル舎 1999

「クリスマスにゴーストストーリーを」というイギリスの習慣に基づき語られた小説集で、お化けが出てくる話なのかと思いきやでてこない?! ヒヤッとさせられるお話が詰まっています。時に怖かったり、時に楽しかったりと1冊でいろいろな感情に引っ張られる本です。特に私は、「切ってやろうか?」というお話がストーリーを想像しにくいタイトルからもわくわく感をたのしめるので、好きです。時間が無い、短時間で読みたいかたにもおすすめなので、ぜひ手に取って読んでください。

K.S

『怪しい人びと』

東野圭吾著 光文社文庫 1998



日本を代表する作家、東野圭吾さんの7編のミステリー短編小説。

自分の近くにいるかもしれない人々の人生の1コマが描かれた、印象に残る物語が一冊に詰まっています。

そう来たか!! と驚く結末も待ち受けている読み応えのある小説です!! N.N

図書館春休み開館日程

春休み貸出しは 3月9日(木)から
1人10冊まで借りることができます。
返却日 4月8日(土)

3月 23日(木)~28日(火)

(土日を除く)

4月 3日(月) ~

開館時間 8:45~16:15

